

主催：群馬大学 前橋工科大学 群馬県
イノベーション創出による地域活性化に向けたシンポジウム

医工連携による 安心・安全な地域医療・福祉の確保に向けて



※ 第1回シンポジウムテーマ「食品」

日時 平成21年12月17日(木) 13:00~17:00
開催場所 前橋工科大学 1号館5階 151教室

〒371-0816 前橋市上佐鳥町460-1
TEL:027-265-0111

※駐車場の混雑が予想されますので
できる限り公共交通機関をご利用ください。

対象 県民、医療・福祉に関連する企業及び団体等関係者
参加費 講演会 無料
交流会 1000円

プログラム

司会 群馬大学共同研究イノベーションセンター / 文部科学省産学官連携コーディネーター 塚田 光芳

13:00~13:05 開催挨拶 前橋工科大学学長 江守 克彦

13:05~14:05 第1部 基調講演 「安心・安全を保障するための群馬県の医療制度改革への対応」
財団法人群馬県健康づくり財団 専務理事 医療局長 真鍋 重夫 氏

14:20~16:50 第2部 パネルディスカッション 「安心・安全な地域医療・福祉の確保に向けて」

モデレーター	群馬大学 医学部 保健学科	山口 晴保 教授
パネリスト	群馬大学 医学部 保健学科	土橋 邦生 教授
	前橋工科大学 システム生体工学科	朱 赤 准教授
	渋川市国民健康保険赤城北診療所	菅野 圭一 医師
	前橋外科医院	田中 建彦 医師
	リコー販売株式会社 MA事業部	高橋 節 氏

16:50~16:55 閉会挨拶 群馬大学理事・副学長 和泉 孝志

17:00~18:00 交流会 名刺・情報交換等

申込方法 開催日までに、下記住所又はメールアドレスにハガキ又はメールにて、住所・所属・役職・氏名・電話番号を記載し連絡ください。

住所 〒376-8515 桐生市天神町1-5-1
群馬大学共同研究イノベーションセンター
『医工連携係』
TEL:0277-30-1183,1188 担当:朝日、塚田
E-mail: asahi@eng.gunma-u.ac.jp

共催:(財)群馬県健康づくり財団
後援:群馬県商工会議所連合会、群馬県商工会連合会、前橋商工会議所
NPO法人北関東バイオフォーラム

前橋工科大学案内図



医工連携による講演会要旨

第1部 基調講演

【13:05 ~ 14:05】

テーマ

安心・安全を保障するための群馬県の医療制度改革への対応

講演者

講演者 財団法人群馬県健康づくり財団 専務理事 医療局長 真鍋 重夫 氏

要旨

我が国の医療崩壊を招いた主たる原因である医療制度改革を概説すると共に、医療制度改革の本丸である医療費適正化計画の問題点を検証する。次に、医療崩壊の現状、救急医療の窮状、高齢者医療・介護の崩壊を踏まえて、先般行われた政権交代による医療制度改革への影響を分析したい。最後に、群馬県における安心・安全な医療体制確保に向けて群馬県を含む行政、医師会、群馬大学が連携した対応策を提案したい。

第2部 パネルディスカッション 【14:20 ~ 16:50】

テーマ

長寿から天寿へのパラダイムシフト～逆転の発想

モデレーター

群馬大学 医学部保健学科 山口 晴保 教授

要旨

長寿化が進み、95歳以上の7割が介護保険の認定を受け、5割が認知症になり、4割が寝たきり生活を送っている。国民全員が長寿を目指すとは悲惨な国になる。人間の死亡率は100%で、いつかは死ぬのだから、つらくて長い老後ではなく、短くても豊かな老後を目指したい。逆転の発想が、新しい需要に結びつく。病院の常識は社会の非常識という点を示し、人間の能力を活かすライフスタイルを提案したい。

テーマ

慢性呼吸器疾患治療の 地域連携ネットワーク構築と医工連携

パネリスト

群馬大学 医学部保健学科 土橋 邦生 教授

要旨

高齢化社会の到来で、喘息・COPDなど慢性呼吸器疾患患者の増加が著しい。これら患者の治療は、今後在宅医療へとシフトしていく。そこで、高いQOLを維持するには、急性期病院と診療所だけでなく、訪問看護、通院・在宅リハビリテーションなど、複数の施設・医療職が連携し、地域ネットワークを構築することによって初めて可能となる。我々が現在前橋地区に構築したCOPD地域連携ネットワークを紹介し、そのネットワーク発展のために、何を工学に求めるか紹介したい。

テーマ

高齢者や障害者の自立生活支援 及び介護負担の軽減できる福祉ロボットの開発

パネリスト

前橋工科大学 システム生体工学科 朱 赤 准教授

要旨

急速な少子高齢化により高齢者や運動機能障害者のリハビリや自立支援、また、介護負担を軽減する機器の開発が急務である。高齢者の歩行支援ロボットを紹介し、次に介護者が高齢者等を座らせ押すタイプの車いすとして使い、介護者の小さい力で移動でき、パワーアシストできる全方向移動支援ロボットを紹介する。更に、寝たきりの人を介護する際に、介護者の負担を軽減する筋電信号制御の腕型パワーアシスト装置を紹介する。

テーマ

生活に医療を活かすアプローチ： 地域診療所医師の『痛くない傷の治し方』の話

パネリスト

渋川市国民健康保険赤城北診療所 所長 菅野 圭一 医師

要旨

医師の少ない地域で診療を行う医師の有利な点は、自分の医療知識やスキルをその地域の生活に密着した形で使えることである。今回その一例として、地域住民や多職種に対して行っている、専門用語の代わりに生活に密着した言葉を使った、創傷治療に関するわかりやすいプレゼンテーション：『痛くない傷の治し方』を紹介し、皆さんに実感していただきたい。

テーマ

褥瘡を安価に早く治すアイデア

パネリスト

前橋外科医院 理事長 田中 建彦 医師

要旨

寝たきり高齢者の褥瘡は、本人にとっても、2時間毎に体位変換する介護者にとっても、大変な苦痛と、肉体的・経済的負担となっている。そこで、壊れ防止包装材のプチプチエアクッションを使った除圧と血流改善により褥瘡を治療するアイデアを考えつき、使用方法を検討した。その結果、褥瘡の治癒が目に見えて促進され、また、褥瘡の予防にも有効で、体位変換の間隔を5時間まで延長できた。材料費が安く治療期間を短くする画期的な褥瘡治療法を発表する。

テーマ

遠隔画像カンファレンスシステム活用による 北関東域連携がん先進医療人材の育成

パネリスト

リコー販売株式会社 MA事業部 高橋 節 氏

要旨

医療技術は日々目覚ましい進化を遂げており、それとともに高度な医療技術に対応できる人材の育成は、重要なテーマとなっている。遠隔画像カンファレンスシステムは、北関東域に散在した各連携病院を高速ネットワーク網で接続し、多忙な研修受講者の時間的制約を解消する効率的な人材育成の為のシステムである。高速ネットワークを通じて展開される様々な地域医療での事例を紹介する。

平成21年11月吉日

各 位

群馬大学
前橋工科大学
群馬県

平成21年度 第2回 医工連携事業
イノベーション創出による地域活性化に向けたシンポジウム
医工連携による安心・安全な地域医療・福祉の確保に向けて(ご案内)

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、群馬大学、前橋工科大学及び群馬県は、住民が健康でいきいきと暮らせる社会を目指して多くの機関等と連携し、その実現に向けて活動を行なっています。

高齢社会の到来に伴い、住民の医療・福祉への関心はますます高まってきています。私たちが健康でいきいきと暮らせる社会を確保していくためには、安心・安全な地域医療・福祉の確保が必要です。

そこで、私たちが健康で安心して暮らせるまちづくりに向け、「医工連携による安心・安全な地域医療・福祉の確保に向けて」と題してシンポジウムを開催することとしました。

医師不足、福祉施設の不足といった地域医療・福祉等の問題について、医療・福祉の現場、研究機関および産業界から、現状での課題や将来の動向、課題解決のための取組等を紹介いただくとともに、医工連携の視点から安心・安全な地域医療・福祉の確保にどのように取り組んでいくか意見を交わします。

また、シンポジウム後に交流会を開催し、率直な意見交換の場、そして産・学・医連携に向けた出会いの場としてご活用いただくことで、さらなる医工連携の促進を目指します。

皆様お誘い合わせの上、ぜひご参加頂きますようご案内申し上げます。

■ 開催日時 平成21年12月17日(木)13時～17時

■ 開催場所 前橋工科大学1号館5階 151教室

〒371-0816 前橋市上佐鳥町 460-1

※駐車場の混雑が予想されますのでできる限り公共交通機関をご利用ください。

電話 027-265-0111 FAX 027-265-3837

■ お問い合わせ先 住所 〒376-8515 桐生市天神町1-5-1

群馬大学共同研究イノベーションセンター『医工連携係』

TEL : 0277-30-1183、1188 担当 朝日、塚田 E-mail : asahi@eng.gunma-u.ac.jp

キ リ ト リ 線

FAX 参加申込書 (0277-30-1192)

企業名・団体名等			
住所 〒	—	TEL	
		FAX	
所属・部署名・役職	氏名	メールアドレス	交流会参加希望(○)
		@	
		@	

※ 交流会参加いただける方は、希望欄に ○ を付けてください。会費 1,000円は、当日受付で徴収します。